

平成 24 年度 教員活動自己点検・評価報告に対する 学長の見解

自己点検・評価報告書に関して、総合的な見解を述べる。

自己評価であるので、自己評価が高い教員と低い教員が見受けられる。将来的には、より客観的に自己を評価し、バランスのとれた評価ができることが望ましい。

完成年度を迎えたばかりの大学であり、業務内容が教育と各種委員会活動に偏っているのはやむを得ないが、ややもすれば業務が能力のある一部の教員に偏りすぎるきらいがある。このように組織への貢献が個人的な研究業績等に影響を与えており、委員会活動などの業務負担をもう少し、バランスよく分担させるべきであると考えます。

このような状況のもとで、研究に関しては、研究活動の活発な教員もいる中で、停滞気味の教員も見受けられる。全教員にはほぼ均等の職免の時間が与えられているので、この時間を有効に活用して研究を遂行することが望まれる。

科研の申請をしていない教員も見受けられるが、最低1件の科研の申請は、全教員が行う方が望ましい。